

鳥取空港の利用者実態分析

鳥取大学工学部 正会員 奥山 育英
鳥取市建設部 正会員 ○藤木 保州
鳥取大学大学院 学生員 藤原 栄吾

1. はじめに

航空機の発達と空港の整備に伴い、航空輸送の交通全体に占める重要性は年々高まっており、近年における航空交通量の飛躍的な増大に応じて地方空港が活発に整備されてきた。しかし、空港利用についての詳細、すなわち、どのような交通機関で空港へ行き来するのか、どのような人々がどのような理由で航空機を利用するのかといった航空機利用や空港利用に対してどのような要望があるのかといった事柄は、あまり分かっていない。

そこで本研究では鳥取空港を事例として、より利用し易くするために実施した鳥取空港利用アンケートによって利用の実態を明らかにすることを目的とする。

2. 鳥取空港の概要

鳥取空港は2000mの滑走路を有し、平成2年7月21日から鳥取－東京間にB-767型機が就航し、平成3年7月20日から鳥取－東京間にA320型機が就航している。鳥取空港の背後圏域は、鳥取県東・中部地域（約35万人）と兵庫県北部地域の一部を含む。現在、東京便3往復計6便、大阪便1往復計2便の定期便が就航している。昭和58年から平成4年にかけての定期便利用客の推移は着実に伸び、鳥取空港は年々整備され利用者も増加しており鳥取県の空の玄関として大きな役目を果たしている。

3. 鳥取空港利用アンケート

本研究で用いたアンケートは、平成4年の8日間 にわたって鳥取県土木部港湾課が行なったアンケート調査である。

調査対象は、平成4年の

9月4日（金）大阪便1往復、東京便3往復、
9月16日（水）大阪便1往復、東京便2往復半、
9月17日（木）大阪便1往復、東京便1便、
11月11日（水）大阪便1往復、
12月7日（月）大阪便1往復、
12月8日（火）大阪便1往復、

12月9日（水）大阪便1往復、東京便2往復半、
12月10日（木）大阪便1往復、東京便1便、
であり、回収部数は総1851部で、回収率は

東京→鳥取：88.4%、鳥取→東京：75.9%

大阪→鳥取：90.3%、鳥取→大阪：64.9%

である。

4. アンケート内容

既存のアンケート調査については鳥取空港利用者に対して鳥取空港への要望を聞き、より利用しやすく親しまれる空港づくりの参考にすることを目的とする。アンケートは鳥取空港発用と羽田・大阪発用とで様式が異なり以下の通りである。

・鳥取空港発用のアンケート内容

- 1) 鳥取空港への出発地
- 2) 空港到着後の行動（乗り継ぎ等）
- 3) 降機後、空港からの目的地
- 4) 今回の旅行の主な目的
- 5) 出発地から鳥取空港までに利用した交通機関およびかかった時間
- 6) 今回の旅行で航空機を利用した主な理由
- 7) 現在のダイヤについての要望
- 8) 7) の内容
- 9) 鳥取空港に新たに開設する路線の希望
- 10) 今後の国際チャーター便の希望
- 11) 性別、年齢、現住所、職業、年収
- 12) 鳥取県に対してのイメージ、鳥取県のイメージアップ案（ともに記述式）

・羽田・大阪空港発用のアンケート内容

鳥取空港発用における設問1)、2)、5)の代わりに、到着後の宿泊地、鳥取空港に到着後の目的地および宿泊地までの利用予定交通機関である。

4. 利用実態調査結果の整理・解析

4. 1 アンケート調査の処理法

アンケートの整理は、1851部におよぶ調査数と設問の多さ、および記述式の回答等の理由により、回答番号をパーソナルコンピューターの画面出力しア

ンケート用紙と照らし合わせながら読み込み用プログラムによりデータファイルを作成する。

4. 2 アンケートの集計

1851人のアンケート結果を次のように分ける。

①鳥取→東京 (716)

②鳥取←東京 (757)

③鳥取→大阪 (126)

④鳥取←大阪 (252)

これらについて

①、②、③、④それぞれの単純集計、

①+③、②+④それぞれの単純集計、

①+②、③+④それぞれの共通設問の単純集計、

①+②+③+④の共通設問の単純集計を行なった。

さらに、居住地を参考にして往路か復路かを決めて、例えば同じ「①鳥取→東京」であっても往きの旅客と帰りの旅客とで区別できるようにもした。

①+③、②+④、①+②+③+④の共通設問単純集計の結果について述べると、

－旅行の目的については「仕事」が全体の68.8%となっている。

－航空機を利用した理由については「他の交通機関に比べて早く目的地に着けるから」が全体の89.3%となっている。

－ダイヤについての要望は「増便を求める」利用者が全体の48.5%あり、「現状のまま」が31.9%である。増便要望の内訳は東京便が9.4%で、大阪便が14.6%であった。増便数については1往復増便が全体の16.9%、2往復増便が6.4%で回答なしが73.4%である。時間帯の変更については回答率が低かった。

－新たに開設する路線の希望は、福岡が11.0%で以下、札幌8.3%、名古屋7.5%、広島4.6%、仙台3.6%で回答なしが61.8%となっている。

－国際チャーター便の希望については、ハワイ5.8%、中国4.5%、香港とソウルが4.1%、シンガポール3.3%で回答なしが73.9%となっている。

－性別については、男、女、回答なしが、それぞれ7.1%、20.5%、2.4%である。年齢については40～50歳が25.0%、30～39歳が23.1%である。

－職業については、製造業が21.6%、サービス業が14.0%、公務が11.1%とである。

－年収については700～999万が16.9%ともっとも

多く500万～699万が13.7%、1000万～1499万が13.4%で回答なしが24.4%であった。

－年収については700～999万が16.9%、500～699万が13.7%、1000万～1499万が13.4%で回答なしが24.4%であった。

－記述式回答を求める鳥取県に対するイメージで圧倒的に多いのが自然の豊かさである。観光名所鳥取砂丘およびナシとカニしか無いというイメージが強い。人口が少ない、保守的で暗い、交通が不便、という意見が目立つ。その反面、のんびりして住み良いという意見も多い。

－同じく記述式回答の鳥取県のイメージアップ案出は、交通網の整備、観光地の強化などの鳥取県の開発の意見が多いなか、自然を残す、手を加えず今のまま等の保守的な意見も無視できない。

－空港等に関しては空港の設備が簡素だ、レストラン、喫茶等の充実、などの空港の拡張、さらに、兵庫県北部、県中部からの利便性の向上、大阪便をジェット化して欲しい、仕事等のための日帰りできる便が必要、などが目立つ。

以上の単純集計に加えて各設問間のクロス集計も行なった。ここでは、鳥取←東京の全便の職業別旅行目的を図1に示す。ここで、職業別で公務員は、第1次、2次、3次産業と別にした。

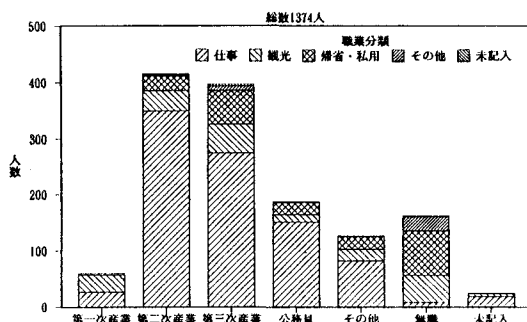


図1 職業別旅行目的別クロス集計結果

5. おわりに

今回は、回答数も設問項目も多かったことから、入力ミスを少なくするため、従来のコード入力ではなく、ディスプレイ画面から入力する新方式を考案した。すべてのデータはファイルに格納されており、集計については、単純・クロス集計とも完了している。今後は、さらに鳥取空港の利用者の実態をより高度に把握するために複雑な解析に進む。